

野生鳥獣から農作物を守る



シカ、イノシシ、サル、カラスなどの野生鳥獣による食害などで、毎年、農作物に多くの被害が出ています。最近では、アライグマなどの外来動物による被害も増えています。

野生鳥獣の特性を知る

被害を防ぐためには、まず相手を知ることが重要です。被害をもたらす鳥獣について、一日ごと・季節ごと・どのよう移動するのか（行動圏・生息場所）、地域にどのくらいいるのか（生息密度）、子や卵をいづろろ・どれくらい産むのか（繁殖能力）、ジャンプ力（運動能力）などについて、



科学的な調査が行われています。

行動圏・生息場所の調査では、サルやシカなどに発信機を取り付けて、GPS（人工衛星を使って正確に位置を測る仕組み）によって追跡するなど、ハイテク機材も活用されています。

被害を防ぐための研究

野生鳥獣から農作物を守るためには、野生鳥獣を集落



や田畑に寄せ付けけない工夫、侵入防止柵の設置、効果的な捕獲などを組み合わせる取り組むことが重要です。これまでの研究により、作物を収穫したあと、畑に野菜のくず（収穫残さ）を残していると、イノシシやシカなどを餌付けしているのと同じになることがわかってきました。集落全体で「畑に収穫残さを残さない」などに取り組むことが効果的です。また、イノシシに効果の

高い「忍び返し柵」やサルに効果の高い「ネットつり下げ式電気柵」など、安く効果の高い侵入防止柵が開発されています。このほか、多数のシカを一斉に捕獲できる大型囲いワナや、イノシシを効果的に捕獲できるセンサー付き箱ワナなども開発されています。